

interview



善兵衛役 村井幹啓さん

団員みんなの助け合いで劇を作るところが町民劇のいいところ。今回は前向きなお年寄りを熱く演じることができました。



舟越平太郎役 渡邊陽平さん

2回目の参加で侍役は初めてでした。所作など難しいところがありましたが楽しく演じることができました。



辰吉・足軽役 野村秋くん

2役あり緊張しましたが、お客さんに笑ってもらえて嬉しかったです。学校ではやらないことを体験でき、楽しく演技ができました。



国を守るため作戦を練るでんでら国の住人たち



でんでら国を目指す善兵衛と源助



舟越平太郎に「でんでら国は必要なのだ」を訴える善兵衛



代官所の包囲網は刻々と着実にでんでら国に迫る

# でんでら国

第11回町民劇場

ワシらは捨てられたのではない、ここで生き直すのだ

あらすじ

幕末の外館藩大平村。六十歳になった百姓の善兵衛と源助は村のしきたりに従い、身一つで御山と呼ばれる場所へ旅立つ。そこは、年寄りたちがこの世のしがらみから解放され田畑とともに余生を謳歌して暮らすもう一つの国「でんでら国」だった。折しも、罪人を取り締まる舟越平太郎は、大平村にあるという噂の隠し田調査を命じられる。調査を始めた平太郎だが、存在の糸口をつかんだ矢先に崖から川へ転落してしまう。重傷を負った平太郎を助けたのは、善兵衛と源助たちであった。けがの治療のため留まる平太郎と年寄りたちが少しずつ互いを理解し始めた頃、隠し田を追う代官所の包囲網は刻々と着実にでんでら国に迫っていた。果たして住人たちは危機を乗り越え切り国を守ることができるのか。善兵衛たちが仕掛ける一発逆転の秘策とは。

「生涯教育の町」宣言40周年記念、第11回町民劇場「でんでら国」ワシらは捨てられたのではない、ここで生き直すのだ」は10月6日、中央生涯教育センターで上演されました。午前、午後の2回公演で行われた劇に町内外から約450人が足を運び、劇団員の熱のこもった演技に魅了されていました。

11回目を迎えた町民劇場。今年は金ヶ崎町在住の作家・平谷美樹さんの小説「でんでら国」を原作に、町民大学シナリオ講座の受講生6人で結成した「チーム\*あすたりすく」が脚本を共同制作し舞台化しました。

7月に旗揚げして以来、キャスト、スタッフが一丸となりこの日のために準備を重ねてきました。

当日は、上演前から多くの観客が列をつくり舞台を待ちわびていました。開演前には板宮成悦実行委員長が「今年も劇団員皆で協力し劇を作り上げてきた。熱のこもった演技を楽しんでいってほしい」とあいさつ。開演すると江戸末期を舞台に農民と役人の知恵比べをコミカルに描いた作品を団員達が熱演し、会場からは笑いや拍手がおこりました。今年も町民の力を合わせた劇が多くの人に感動を届け幕を閉じました。



4



3



2



1

1 外館藩の侍・三造がでんでら国を見つけると意気込む 2 でんでら国の住人たちの作戦におびえる足軽たち 3 外館藩主に秘策を持ちかけたでんでら国の住人たち 4 上演前に列を作る観客たち